

地域全体で互いに協力し合うまちづくり 地域で子どもを見守ろう

家庭や地域、社会などへ男女ともに参画し、生き生きと暮らせる男女共同参画社会の実現のため、地域全体で互いに協力し合うまちづくりが求められています。

今号では、「食」を通して地域の大人たちと触れ合い、子どもたちに笑顔の花を咲かせることを目的として活動している「十和田子ども食堂実行委員会」の水尻和幸委員長にお話を伺いました。

ゆっパルの由来

この地方の方言で、「結ぶ」という意味の「ゆっばる」と、英語で「仲間・友だち」という意味の「パル」からできています。「一人ひとりの思いが結びついて仲間をつくる」という願いが込められています。



十和田市男女共同参画市民情報誌「ゆっパル」編集委員によるコーナーです。

Interview

十和田子ども食堂実行委員会

水尻 和幸さん (43歳)



設立 平成31年1月1日
会員数 20人
活動内容

子どもたちに無料で食事を提供し、温かいだんらんの機会を提供する十和田子ども食堂を運営

本業は「グループホーム たかしずの森」（相坂字高清水）の管理者。地域の子どものためにできることの一つとして「十和田子ども食堂実行委員会」を立ち上げる。自身も3児の父。

●今年度の「十和田子ども食堂」開催日程

- ① 5月5日(日) 市民交流プラザ「タワーレ」で約100人参加。地元産の野菜サラダや青森シャモロックのから揚げなど提供。
- ② 8月25日(日) 相撲場で約90人参加。
- ③ 10月20日(日) 沢田悠学館で約60人参加。親子でうどん作り体験。



十和田子ども食堂実行委員会メンバーで市長表敬

これまで開催した子ども食堂の様子



地元産野菜を使ったサラダや青森シャモロックの丸焼き、棒パン焼き、うどん作りの体験型の交流などを通して、子供たちに笑顔の花が咲いていました。

Q「十和田子ども食堂実行委員会」を立ち上げた経緯を教えてください。

以前、十和田青年会議所で理事長を務めた経験があり、その時に子どもたちと関わる機会も多く、子どもたちや地域のために何かしたいという思いがありました。

市内にあるいずみ法律事務所の鈴木陽大弁護士と仕事上での付き合いがあり、世間話をしている中で、市内にも貧困な家庭や母子家庭で困っている人たちがたくさんいるということを知りました。そのような家庭の子どもたちに、単純にお腹いっぱい、おいしい物を食べさせてあげたいという思いから「十和田子ども食堂」を開催することを決めました。

Q「十和田子ども食堂」を開催するに当たって、大変だったこと、続けていて良かったことなどはありますか？

企画から開催までのノウハウは、青年会議所で学んでいたこともあり、難なくできました。本業がグループホームの管理者のため、例えば開催当日に入所者に急変などがあり、予定変更になることなども想定していましたが、自分が不在でも流れなど分かるように入念に準備はしていたので、その点は安心していました。

やはり、子どもたちの心から楽しんでいる姿を見られることが何よりの喜びです。準備は大変でも継続するエネルギーが湧いてきます。また、いろいろな方々に集まっただけ何かできたときの達成感は何度味わっても嬉しいものです。

Q水尻さんの「食」へ対する思いやこだわりなどはありますか？

県産、十和田市産の食材を極力使いたいため、さまざまな方の協力を得て地産の物を使うようにしています。食材を提供してくれる方もたくさんいて、非常に助かっています。また、子ども食堂開催前には必ずスタッフで集まり、当日と同じメニューを事前に確認しながら試食し、流れなど確認しています。

大学時代のアルバイト先の店主が、いつもおいしいごはんを食べさせてくれたことが今でも忘れられず、その思い出が子ども食堂開催への思いにもつながったと思います。

Q今後新たに取り組みたいこと、子どもたちへのメッセージなどはありますか？

来年度は毎月開催することを目標に、いずれは子ども食堂を常設したいです。また、市内だけではなく県規模でも開催したいと思っています。マイクロバスも持っていて運転することが好きなので、子ども食堂バスを作り、移動バスでの開催も考えています。

子どもたちには人生を楽しんでほしいので、自分が楽しんだことや経験などを後生にも引き継いでいきたいと思います。

■インタビューを終えて

老若男女問わず「人」と「人」との関わり合いを大切にしている方なのだと思います。子どもたちを笑顔にするために日々奮闘している姿は、きっと次世代を担う子どもたちへも伝わっていることでしょう。

また、ご家族の協力があってこそ、これだけの大きな事業を達成することができているのだと思います。

人が集まる場所には自然と笑顔が生まれます。これからも、笑顔があふれる十和田市であるよう、水尻さんのさらなる活躍を期待しています。

ホットな一句



◆◆ 編集後記

- ・笑顔は幸せの連鎖を生みますよね。十和田子ども食堂の常設を心から期待しています！（U）
- ・団体を立ち上げるには、1～2人だけでは無理で周囲の援助が必要ですね。（K）
- ・ボランティアの始まりは美しい。長続きしますよう、どこかで微力でも協力できますように…（S）
- ・子どもたちが、地域の中でたくさんの人に支えられ、幸せに生きられる社会でありますように。（S）
- ・取材に同行して話を聞き、まさに「アイデアと行動力の人」だと思いました。やる気をもらえた感じがしました！（N）
- ・お祭りも終わり、もうすぐ雪の季節。周りで子どもは見ないけれど、子どもたちには元気に育ってほしいです。（F）

「さんかく日和」その14

Akemi.N



編集 十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員

漆館 優美花、木村 奈生美、笹森 栄子、新藤 幸子、中野渡 明美、深谷 淳子

発行 総務課 広報男女参画係 ☎016702